



歴史は繰り返す

皆様、新年明けましておめでとうございます。大村子供の家に対する日々のご理解・ご協力に対し改めて御礼申し上げます。新年度の願いは一言につきます。「コロナ退散!」(もういい加減勘弁してください…)

人類と疫病との戦いは今に始まることではなく、紀元前3500年ほど前のメソポタミア文明から存在したと言われています。コレラやペスト、スペイン風邪（インフルエンザ）等あげるときりがありませんがいつの時代も人類は疫病と闘ってきました。意外にも長崎における社会的養護と疫病の歴史には繋がりがあります。

明治初期の長崎で孤児養育に取り組み、近代社会事業の先覚者といわれる岩永マキは長崎・浦上村の潜伏キリシタンの家に生まれました。1865年の「信徒発見」の後、フランス人宣教師、マルコ・ド・ロ神父の手足となって当時長崎で流行していた赤痢や天然痘患者の治療、防疫、台風等自然災害被災者支援のため献身的に働き、その後も信仰と社会福祉事業に生涯を捧げています。1874年、3人の女性信者と共に、浦上本原郷に国内初の児童養護施設とされる「小部屋」（現在の浦上養育院）を開設し、多数の孤児を引き取って育て、類似した施設が全国へと広がっていきました。

ここで見えてくる共通項は「困っている人・苦しんでいる人を助ける」という福祉（人間）の原点です。

疫病の歴史が繰り返されるように、岩永マキが当時行っていた自然災害被災者支援や防疫のための取り組みも、形を変えながら繰り返され、いずれは多機能化が求められる施設の役割になりうるのではと感じています。

人類はこれまで幾度となく疫病と闘い、乗り越えてきました。今回も必ずゴールはあります。疫病や自然災害など、今後予期せぬ災難が降りかかるとも、福祉の原点に立ち返り、互助精神を忘れず、我々にできる地域支援を続けていきたいと考えています。

子供の家の子ども達と一緒に12月19日、感覚統合プログラムの一環で「門松作り」を行いました。毎年この時期にクリスマスリースを作っていましたが、各ホームに過去の作品が増えてきたため、今回、初の試みで門松に挑戦。何のために飾るのか、いつから飾るのかなど、お正月に関する話も子ども達は静かに聞いており、作業も集中していました。「先生、どうやるの？」等、手を借りずにしたいと言う子もいて、楽しみながら作ることが出来ました。大胆な門松、繊細な門松、様々な門松、来年もよい年でありますように。年神様、ちゃんと道に迷わず、ホームまでお越しください。



お正月の準備・門松作り

ヒューマンストーリー



旧職員 山中 英子（調理員）
～食は子どもにとってとても大切なものの～

施設内に食事の放送が鳴り渡ると、一斉に子ども達や先生方が方々から食堂に集まり、賑やかにご飯を食べ始める。当時は子ども・職員あわせて100名近くいた。時には子どもたちが近所の友達を連れてきて、一緒にご飯を食べていた。みんな好き嫌いなく食べてもらえるため、殆ど残食もなかった。調理員も施設に住込み、子ども達や先生と一緒に和気あいあいとご飯を食べていたあの頃が懐かしい。

佐賀県塩田に生まれた私は8人兄弟の上から2番目でおとなしい性格、体も弱かった。父は祐徳稻荷神社の屋根張などを行う職人で、自分の意見を曲げない人だった。母は祐徳稻荷近くの和菓子屋に勤めるいたって普通の女性だった。小学校2年生の時、父の仕事の関係で大村に引っ越したが、戦況が悪化する中、疎開のため伯母のいる塩田へ戻った。塩田小学校までは家から徒歩で30分と遠く、登下校中、空襲サイレンがなると妹が泣き出して、なだめるのに大変だった。祖母が亡くなった後また大村に移り両親と生活。中学校で将来の夫となる人と出会う。父には結婚を猛反対されたが、心の中では父に対する強い反発心があり、父が亡くなった後すぐにその人と結婚。子宝にも恵まれ2人の子を授かったのだが、病気などで若くして2人とも亡くなってしまった。失意の中、気晴らしにと知人の紹介を受けて名古屋の工場に勤務。昭和37年に大村で水害があったときに、実家が川の側だったので、被害を受け、その復旧手伝いのため、再び大村に帰る。

学校給食の募集が出ており、試験を行ったが、試験官の知り合いが合格し（いわゆる縁故採用）、「そしたら何で募集かけるんだ」と周囲に愚痴をこぼした時があった。それがどういうわけか、坂田先生（初代子供の家理事長）の耳に入り、後日「大村子供の家の調理員として働きませんか」というお手紙をいただいた。坂田先生はいつも「子ども達においしいもの、旬のもの、地元のものを食べさせてくれ」と言い、食材に対しては不自由させない人だった。ご近所から野菜やバターをいただいたり、当時では珍しいカレーライスを出したり、一般の家庭同様もしくはそれ以上のおいしい食事だったと思う。当時を振り返り、楽しい思い出ばかり。貧困の家庭が

多く、中には問題を起こして入所する子もいたが、子どもなりにみんな苦労しており、またみんないい子だった。子どもにとって食べることはとても大切。食を通じて心身共に癒され、そして大きく成長してほしい。

行事予定

- 1月・・新年祝賀会（ホーム単位）、正月遊び、成人の日、私立高校入試
- 2月・・児童養護施設職員園外研修、節分
- 3月・・卒園・卒業式、卒園生歓送迎会



編集後記

「レベチ」という言葉を若い職員から初めて聞いた時、沖縄料理（テビチ）？か何かと思った。「レベルの違い」という意味だそう。「ナウいね～」と返したいところ。同じ日本語でも年代や地方によってわからないことがある。コミュニケーションは本当に難しいと思う今日この頃。

社会福祉法人 大村子供の家 〒856-0811 長崎県大村市原口町
591番地2 TEL 0957-55-8319 FAX 0957-55-4661



b&g 放課後児童クラブ おおむら

～久しぶりの野外活動～

10月5日（月）に子ども達と玖島崎キャンプ場へ遊びに行ってきました。天気にも恵まれ絶好の外遊び日和！初めての野外活動にドキドキの子もいれば、久しぶりでワクワクの子もいて終始賑やかな空気でした。

玖島崎キャンプ場に到着後はスタッフからの注意事項を受けその後自由活動。早速海に遊びに行く子や火起こしを手伝う子、キャンプ場の周囲を探索する子など思い思いに散っていきます。海に行ったグループは豪快に肩まで浸かった子を見て一人、また一人と浸かり始め、思う存分に海を満喫していました。途中やっぱり寒くなったのか焚火で温まり、その後ちゃんと自分で用意した替えの服に着替えている子を見ると、以前に比べ「成長しているなあ～」と感じることができました。

周囲を探索する子たちは誰が一番大きな松ぼっくりを見つけられるか競争してみたり、思い思いの武器（木の枝）を探しに行ったり、自分の気の向くままに楽しんでいました。野外活動での楽しみといえば外で食べるおやつもその一つ。自分達で集めた薪で火を起こし焼いていると、日頃はおやつを食べない子でもその時ばかりは「美味しい」とたくさん食べてくれます。ちなみにb & g おおむらで人気の食材はマシュマロとウインナーです。

もちろん帰るときはキレイに片付けるまでが野外活動。
使ったかまどの片付けなどを積極的に行う姿がとても頼もしく、子どもたちの成長した姿をたくさん発見できた野外活動でした。



認定こども園 キッズランド 活動報告

2名の表彰！！ ヤマハ発動機スポーツ振興財団が主催する、第32回「全国児童水辺の風景画コンテスト」にキッズランドの園児も応募しました。今年度は全国各地の幼稚園、保育園、小学校、絵画教室などから、合計6,556点という多くの作品が寄せられたそうです。その中で、3歳児と4歳児の2名が表彰されました。園内で「表彰式」を行い賞状と記念品をいただきました。

しいたけ狩り体験 11月中旬、年長・年中組は紅葉を眺めながら黒木町にしいたけ狩りに。木場にはクヌギの原木に多くのしいたけがよきよきと生えています。園児達は、興味津々で収穫し、「大きいのを取ったよ」と嬉しそうな声が響いていました。



はじめてのえんそく こあら組（0歳児）ぺんぎん組（1歳児）の園児たちは、近くの公園に初めてのお散歩に行きました。途中で「泣き出したり」「いやいや」となるかと思ったら、なんと！全員が最後まで楽しそうに自分で歩き帰ってくることが出来ました。がんばったぞ～！！お弁当はペロリ完食です。



園児達のDIY くじら組（5歳児）は12月から1月にかけて、「木工の日」と名付けて卒園の記念品作りの取り組みを始めました。初めて使う「カナヅチ」に戸惑い、木工先生の指導の下、板を叩いたり、「クギ」が曲がったり、「クギ」が板から飛び出したりと戦慄。完成までには、まだまだ時間はかかりますが何ができるのか楽しみです。

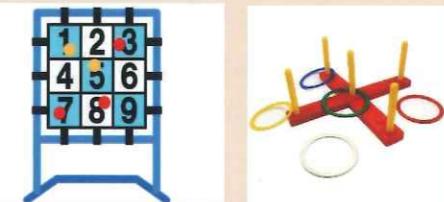


児童養護施設 大村子供の家 遠隔スポレク参加

毎年秋に長崎出島ロータリークラブ主催で、県内の児童養護施設児童が招待され実施される「長崎県スポーツ・レクリエーションフェスタ」。今年はこれも中止か…と思っていたところ、長崎出島ロータリークラブの皆様の計らいで、道具の準備までして頂き、それぞれの施設でストラックアウト（子ども達がとても好きなゲームですね）と輪投げを実施し、各施設で点数を競い合う形でリモート開催して頂きました。

子供の家では12月5日に小学生・幼児の子ども達で集まり、体育館で2つのゲームを行いました。短い時間でしたがとても賑やかに過ごすことができました。普段は別々のホームで生活しているため、久しぶりに顔を合わせた子ども達もいて、ゲームだけでは物足りなかったのか、終了後も外に出て鬼ごっこやサッカーをしたりと日が暮れるまで思う存分遊んでいました。

後日、結果発表があり、見事『3位！！』。たくさんのお菓子を賞品として頂き、子ども達も大満足の様子でした。長崎出島ロータリークラブの皆様ありがとうございました。



小規模保育園キッズホーム クリスマスお楽しみ会



12月24日はクリスマスイブの日。今年は秋祭りが中止となったため、キッズホーム単独でクリスマスお楽しみ会を実施しました。午前中は模擬店を保育室内に準備し、子ども達とお店・買い物ごっこ遊びを楽しみました。お弁当屋さんや携帯ショップなどいろんなお店が並びます。お金や商品は全て紙や毛糸、資源プラスチックを材料に保育士が子ども達と一緒に作ったものです。ポップコーンだけ本物の機械を使い、子ども達の前で調理・プレゼントをしました。コーンがどんどん膨らみ、ポップコーンになる工程を子ども達は興味深く見ていました。

午後は、ピアノの伴奏と共に「ジングルベル」を熱唱している子ども達の元へサンタさんが現れました。サプライズ登場に子ども達も唖然とした表情。中にはプレゼントを取りに行くのを怖がり、泣き出す0歳児さんもいました（突然現れてごめんなさい）。2歳児ともなると、プレゼントを受け取った後きちんと「ありがとうございます」とお礼を言える子ばかり。何かと自粛ばかりで子どもたちの楽しみも規制される中、少しでも楽しい思い出になってくれれば幸いです。

ご寄付・ボランティア御礼

秋から年末年始にかけて、様々な方々からお心遣いをいただき、子ども達は楽しく年の瀬を過ごすことができました。皆様方からの子ども達に対する温かいご支援本当にありがとうございます。



11月7日に大村子供の家にペルバスがやってきました。絵本「えんとつ町のペル」の「光る絵本展」をバスの中に作り、全国各地を回られているそうです。

子供の家以外の地域の子ども達も集まり、ペルバスの中を見学。帰りにホットドッグまでいただき、良い気分転換となつたようです。不登校児の家族会「なづな」様をはじめ、このような機会をいただきありがとうございました。

